

# 平成29年度 みなみ愛媛通園センター児童発達支援評価集計表

保護者数（児童数） 1人/1人 回収率 100% ※児童発達支援対象者は現在3名だが、内2名はH30年2月からの利用開始（利用回数1回）のため、今年度はこの評価表を配布していない。

事業者向け 自己評価表					保護者向け 評価表							
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や現状	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	★	受入規定に沿ったスペース確保はできており、横になって過ごすスペースには連結マットとキルケットを敷き、車椅子に座って過ごす場合のスペースと分けて取っている。	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか			○			
	2 職員の配置数は適切である	3	1	★	職員の人数配置上、十分な1対1対応ができない日もあるのは致し方ないが、活動に参加する際は交替で1対1で付いて介助したり声かけしたりしている。	2 職員の配置数や専門性は適切であるか		○				
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	2	★	・玄関からの段差はなく車椅子で入りやすくなっているが、デイルーム内やトイレに手すりがなく不十分。 ・自力移動できない利用者さんが横になっているため、空間を自由に動き回ることができない。（制止を促す場面も度々ある）	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○				
業務改善	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっている。	3	1	★		4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか		○				
	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している。	3	1	★	・毎日の詳細な記録はできており、目標設定や振り返りがしやすい。 ・支援計画に沿った毎日の記録での振り返りはあるが、それ以外の事項の改善はなかなかできない。							
	6 保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	0	4	★	今年度は満足度調査を実施し、その結果を考察し機能訓練担当職員の配置を少しでも充足させる方向に活用することができた。	この調査票を毎年実施し、今後の業務改善に生かす。						
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	0	4	★		29年度から公表することになっている。						
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	0	4	★	第三者に委託するところまでには至っていない。							
9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	3	1	★	・重症心身障害児・者の通所事業所が集まる協議会の会員になっており、その研修会に参加するよう努力しており、刺激になっている。 ・院内の研修があるが、巡回の日の実施も多く、参加できないこともある。 ・研修先が遠かったり、業務や旅費の都合上受けてみたい研修に参加できないこともあ								

事業者向け 自己評価表					保護者向け 評価表							
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や現状	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズと課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	4	0	ニーズや課題を分析はしているが、その客観性は自信がない。	5		○				
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	1	3	利用が決まった際には、詳細な個人プロフィールを作成しており、それをアセスメントシートとしても活用している。毎年変更点の確認をし、修正しながら使用している。							
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている。	1	3		6		○				
	13	児童発達支援に沿った支援が行われている。	4	0		7		○				
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている。	4	0	その月の担当者を年度初めに決めて、その担当者が決めている。							
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	4	0	・季節に合わせた活動・季節を感じられる活動を考えている。 ・少しずつ新しい取り組みにもチャレンジしている。	8		○				
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成している。	2	2	子どもの個別の状況に合わせて活動参加の支援をしている。主に午前の活動は全員で共に活動する内容であり、午後の活動は個別の活動を設定するが、この対象者については午後からは休息のため午睡している。							
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	4	0								
	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	2	2	記録や気付いた点などの話し合いはその都度に行っているが、決まった時間を設定できてはいない。							
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	4	0	その日の活動の様子を記録に残している。また、支援計画に沿った記録をとることで、モニタリングや次の計画作成に活用している。								

事業者向け 自己評価表					保護者向け 評価表							
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や現状	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援の見直しの必要性を判断している。	4	0								
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	3	1	相談支援事業所の担当者会議には呼ばれたことがないため、参加はできていない。							
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	2	2	対象児に対しては、認定子ども園や相談支援等の関係機関との情報共有はできている。							
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。			現在の児童発達支援対象児はこの項目に該当しない							
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている。										
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	4	0	認定子ども園の先生からの情報を得て共有している。							
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	1	3	現在の対象児についてはまだ就学先が決定していないので実施していないが、来年度は必要に応じて実施したい。							
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	1	3	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等からの助言や研修は受けていないが、当園の管理者が発達外来を担当する医師で、年2回の診察・健康相談の際には相談している。							
	28	保健所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	3	通園としては実施していないが、現在の児童発達対象者については、週4日は認定子ども園に通っているため必要性はないと思われる。	9	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○		
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	0	4	県や市町の主催する会への参加はしていない。								

事業者向け 自己評価表					保護者向け 評価表							
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や現状	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明責任等	30	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	4	0	口頭ではもちろんのこと、家族とのやり取り用の連絡帳にもその日の様子などを詳細に記入している。	13		○				
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている。	0	4	基本的に母子分離で実施しており、保護者へのペアレント・トレーニングの実施はできていない。	12		○				
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	4	0	利用が決まった際に重要事項説明を実施している。また、問い合わせがあった場合は、確認した上対応している。	10		○				
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の狙い及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者に児童発達支援計画の同意を得ている。	3	1		11		○				
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	4	0	・保護者面談を実施している。悩みを聞くことはできているが、助言までできているかは自信はない。 ・支援・医療・リハビリそれぞれの職種があるので、相談内容に応じて適切な人材で対応することは可能である。	14		○				
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	0	4	保護者会はないが今後作っていくべきだと考えている。中心となって動いていただく方がいなければ進まないため、保護者の皆様の協力が必要である。	15		○				
	36	子どもや保護者の相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れが合った場合に迅速かつ適切に対応している。	4	0	当園への苦情から発生した案件ではなかったが、利用中止の申し入れが間接的にあった際は苦情窓口で対応した。	16		○				
	37	定期的に会報を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	4	0	・年4回通園だよりを発行するよう努めている。 ・毎月末に翌月の活動・行事予定表を配布している。	18		○				
38	個人情報の取扱に十分注意している。	4	0		19		○					
39	障害のある子どもや保護者の意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	4	0	毎日、連絡帳も活用して行っている。	17		○					

事業者向け 自己評価表					保護者向け 評価表							
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や現状	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	0	4	外出等で地域住民と触れ合うこともあるが、行事に地域住民を招待するには至っていない。							
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	3	1		センター内マニュアルは策定しており、職員には周知されているが、保護者には伝えられていない。伝え方を検討する必要がある。	20		○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	3	1	対象児の利用日には実施できていない。	できるときに実施していたが、今後は年間計画に組みこみ定期的に実施する。	21		○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している。	4	0	利用開始が決まった際には個人プロフィールを作成し記載している。毎年の保護者面談等でも変更点の聞き取りをしている。発作のある利用者さんには頻繁に情報把握するよう努めている。							
非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。			現在は該当者なし。							
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	4	0	通園での事例はもちろんのこと、病院や療育センターの事例についても、毎月共有するようにしている。							
	46	虐待を防止するため、職員の研修の機会を確保する等、適切な対応をしている。	4	0		当院の虐待防止委員会主催の研修会があり、可能な限り参加したいが、巡回の都合で毎回参加できるとは限らない。参加できなかった場合は、資料をもらって研修内容の周知を図るようにしたい。						
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	2	2	・身体拘束の対応については病院や療育センターとして決まっている。 ・突然の発作に備えて、車椅子乗車時に通園で準備したベルト着用をさせてもらう人(車椅子付属のベルト無し)については支援計画の中に記載し同意を得て使用している。							
						22	子どもは通所を楽しみにしているか		○			
						23	事業所の支援に満足しているか		○			